

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

京都市立松尾中学校

4月19日に、本校3年生170名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語、数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を使う調査も実施しており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果】(国語・数学)

国語A、国語B、数学Aはいずれも全国平均・京都府平均を上回りましたが、数学Bについては全国平均・京都府平均をやや下回りました。

無解答率(答えを書かない人の割合)は、数学Bのみ全国平均より若干高めでしたが、それ以外は全国平均と同程度か全国よりも低くなっています。これは、生徒が問題と向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育ちつつあると考えます。

【国語科より】

漢字の読み(封筒・報われる・敬う)書き(研究・独創・植える)については、おおむね良好でした。ただし、以下の分野に課題がみられます。

○語句の使い方で課題が残ります。慣用句(合間に縫う・手塩にかける・白羽の矢が立つ)に普段から親しみ、使い慣れる必要があります。また、漢字のもつ意味の理解についても課題がみられます。

○文章の要約をする問題は、おおむね良好でした。授業で行っているコラム欄の読解・要約の学習の成果が見られます。今後も積極的に取り組み、慣用句や言葉について 관심をもちましょう。

主として活用する力を問う国語Bは、おおむね良好でした。したがって、今後は基礎的・基本的な知識をしっかりと習得し、豊かな表現力と文章読解力の向上につなげましょう。

【数学科より】

知識や数学的技能の問題について全国平均より若干良好でした。しかし、以下の分野に課題がみられます。

○ 数と式の分野

- ・分数や小数を含む計算
- ・数式を条件に合うよう変形する問題

○ 図形分野

- ・証明に関する問題(三角形の合同を使った証明、与条件からわかったことの証明)

○ 関数分野

- ・グラフ・対応表から式を作る問題(反比例の関係)

- ・グラフの読み取りに関する問題

○ 資料の活用

- ・用語の意味を問う問題(中央値、最頻値、有効数字など)

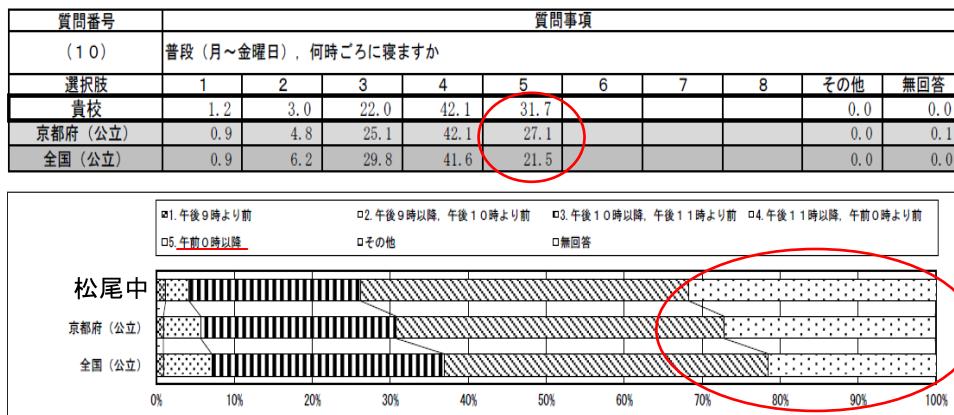
- ・グラフの読み取りに関する問題

また、不等式や比例式は全国平均よりも良好で、週末課題に取り組んできた成果が表れています。いっぽうで無解答率の高い分野の問題もあります。粘り強く考え、読み解く力をつけていきましょう。

【生徒質問紙調査で見えてきた松尾中学校生の課題】

① 夜ふかしの生徒が多い

平日の就寝時間が、「午前0時以降」と答えた生徒が3割を超えるました。これは京都府・全国より高く、とくに全国より10ポイント上回っています。

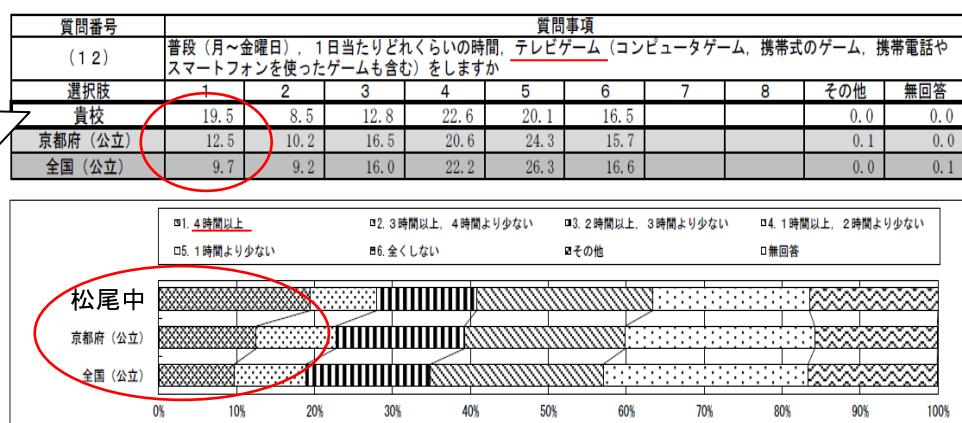


12時を越えて就寝する生徒が京都府・全国より多めです。

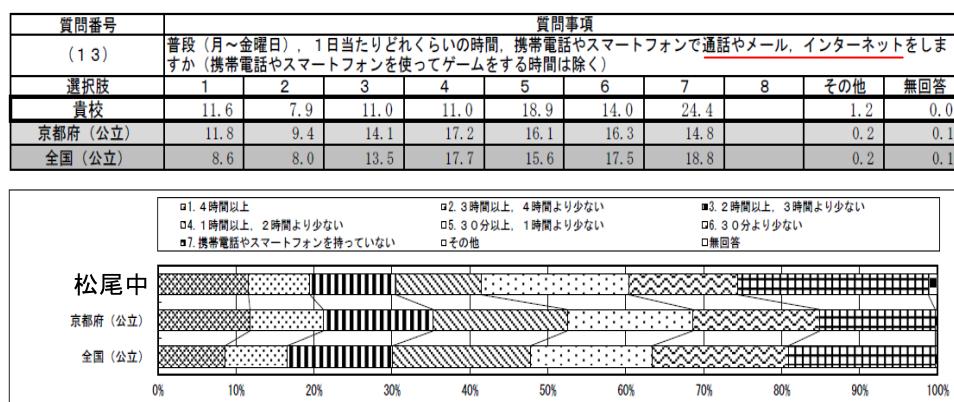
② 長時間に及ぶゲームの利用

昨年度よりは減っているものの、平日にテレビゲーム（PC、ゲーム機、スマホを使ったゲームも含む）をする時間が、京都府・全国を上回っています。ただし、通話やメール、インターネットの利用時間は、全国並み、京都府より下でした。

4時間以上「ゲーム」をすると答えた生徒の割合が全国より10ポイントも高く、「ゲームづけ」の日常生活の一端が見て取れます。



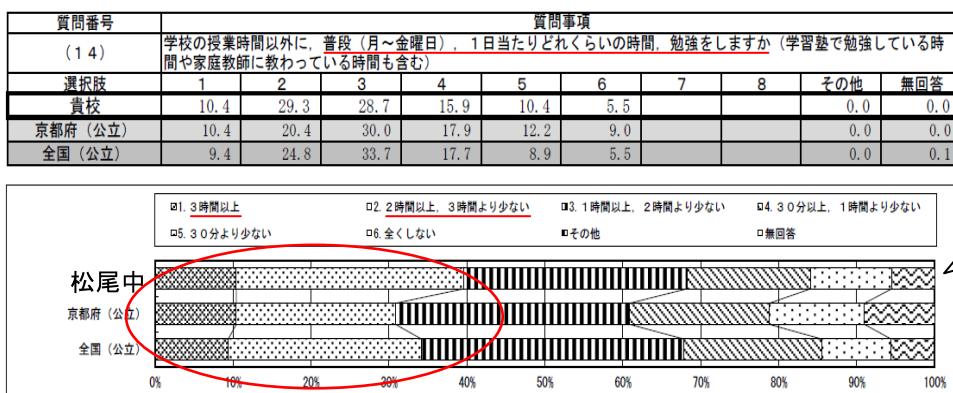
通話、メール、インターネットの利用時間は全国と同水準です。



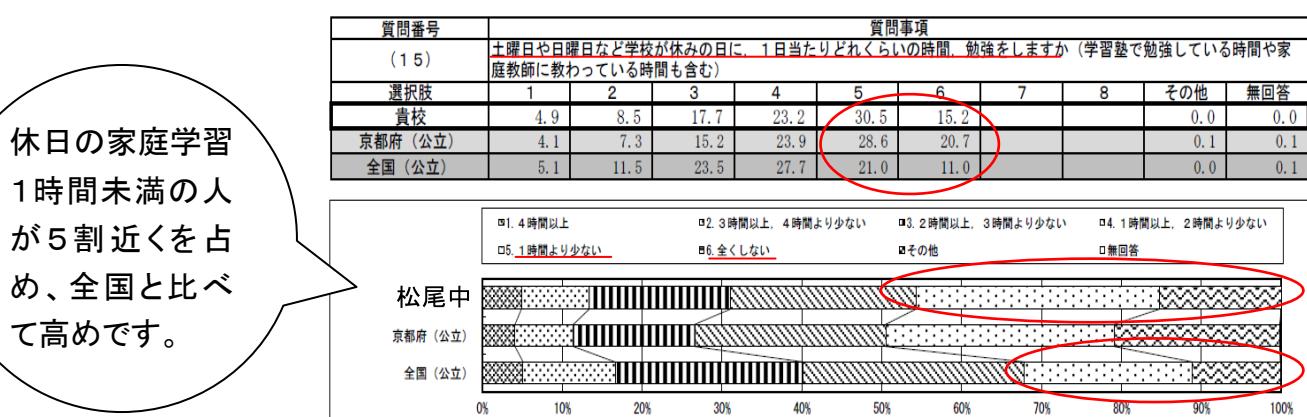
裏面につづく→

③ 休日の家庭学習の時間が少ない

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強を「全くしない」15%、1時間未満までを含めると50%近くの人がほとんど勉強をしていないと回答しています（全国は1時間未満が約30%）。平日の家庭学習の時間は「2時間以上」の人が京都府・全国を上回っているだけに、休日の少なさが目立ちます。



平日の勉強時間
は、京都府・全国
と比べて上回って
います。

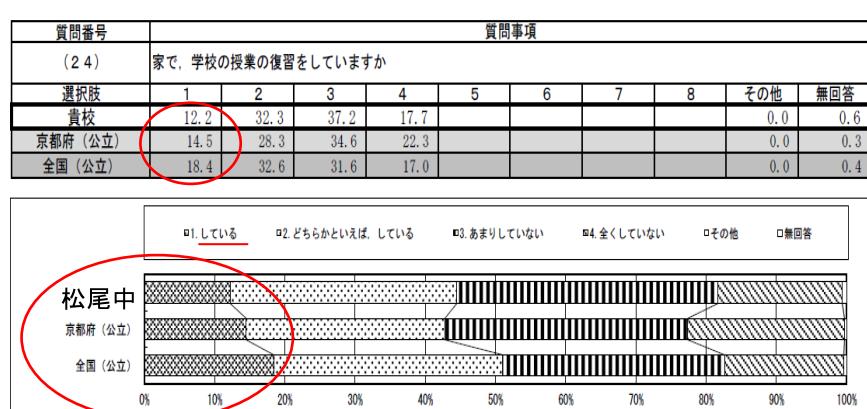


休日の家庭学習
1時間未満の人が
5割近くを占め、全国と比
べて高めです。

④ 授業の復習をする習慣が弱い

家で学校の予習をしている人は、京都府・全国より高めであるに対して、家で学校の復習を「している」と答えた人が、京都府・全国より少ないのが気にかかります。

学習内容を定着させる上で
も、家で復習する習慣は大
切にしたいものです。



【全体を通した本校の成果と課題】

松尾中学校では「確かな学力を身につけた生徒の育成」という指導目標のもと、学力向上の取り組みに関しては、学習確認プログラム等の学力情報を共有して、日々の指導方法の改善に努めてきました。

今回の本校結果を前回と比較した場合、国語A/B・数学A/Bいずれも、前回より伸長傾向が見られました。同じ問題ではないので単純に比較はできませんが、今後も引き続き、教科の学力を伸ばしていきたいと考えています。

今回の結果で望ましい点は、家で宿題を「している」と答えた人が、2年連続で増えていることです(51.7%→57.0%→64.0%)。いっぽう「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた人が京都府・全国より7ポイント以上も少なく、1割を下回っているなど、主体的に学ぼうとする姿勢がまだまだ弱いように思われます。

子どもに身に付けてほしい「確かな学力」の中には、知識・技能や、思考力・判断力・表現力が含まれるのはもちろんです。しかし、さらに「学ぼうとする意欲」、「生涯にわたって学び続ける力」が重要な要素として注目されています。この点で、松尾中学校の生徒には、足りない部分があると考えます。与えられた課題をこなすという受け身の学習ではなく、夢や目標を設定し、自ら立てたプランに基づいて学習をすすめるという、主体的・能動的な学習に転換していくよう、学校としても学習指導、支援のあり方を見直していく必要性を痛感しております。

また、平日のゲームの利用時間の長さと、就寝時間が遅いことは、相互にリンクしていると思われます。生活習慣の見直しと学習習慣の定着という点で、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援が必要だと考えております。



【保護者のみなさまへ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な取り組みの積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

松尾中学校としてもいっそうの指導改善に努めてまいりますので、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにむけて、ご協力ををお願いいたします。